

「下関ってなんだかいいな!」

子ども記者が 下関を自分ごと化!

角倉小学校の6年生が子ども記者となり、ジモトガイドを作成しました。最初は、下関の魅力が浮かばなかった子どもたち。自分たちで取材してみると…。



広報戦略課
☎231-2951



未来の下関の担い手へ

始まりは、シテイプロモーシヨンの取り組みに共感した角倉小学校川上昌秀先生の1本の電話から。

角倉小学校では地域探求課題を設定し、解決に向けて取り組んでいきます。「さらにシテイプロモーシヨんとつながることで、子どもたちの市民性を高めて、未来の下関の担い手として育てていきたい」と、川上先生は熱い思いを市に届けました。

ちょうど市では、全国に下関の魅力を発信するため、子ども記者によるガイドブックの作成を企画。具体的な進め方を検討していました。

こうして、子ども記者によるジモトガイドの作成がスタートしました。

下関の魅力を集める

作成するのは、角倉小学校6年生33人。まずは下関の魅力を洗い出すことから始めます。そして、その魅力の「どんなことを知ってほしいか。何を伝えたいか」を考えました。

「歴史を知ってもらいたい」「おいしい食べ物に興味を持ってもらいたい」などの意見が集まります。それ

ぞれの魅力の現状、課題、ターゲットにどうすれば伝わるかを考えて、みんなで取材計画を立てました。

いざ、取材へ。大人の話を一生涯に聞き、手分けして写真撮影。

取材後は、一人一人がおすすめの場所とキャッチコピー、面白ポイントを考えました。

下関って素晴らしい

6年生の亀甲夏穂さんは「最初、下関の魅力が全然思い浮かびませんでした。でも、調べてみると、他の市にはなさそうなことがありました。それをいろいろな人に伝えたいという思いで取材しました」と話します。

取材で学んだことを4年生に説明すると、「どういう意味?」「わからないう」という感想があったそうです。「もっと詳しく下関について調べていきたい」と亀甲さん。

「下関はあまり知られていないと思うって、自分が住んでいるまちという意識しかありませんでしたが、取材をしたことで、私たちが住んでいるまちって素晴らしいと感じるようになりました」

自分の目で見た感動

森航琉さんは「ジモトガイドを作り始めた時、下関にはすごいところがないと思っていました」と、正直な気持ちをお話してくれました。

ところが、みんなが下関の魅力を探して、現状や問題点を考え、計画を立て取材すると、考えが変わったそうです。

「長府、赤間神宮など他の県の方にも伝えられるすごいものがあると感動しました。特に功山寺の門は、パンフレットで見るとは、実物がすごく大きくて心に残りました」と森さん。

取材で学んだことを4年生に説明した時は「下関ってすごいんだ」と感じてもらいたいと思い、一生懸命に説明したそうです。

「下関の魅力は全国に知られていないと思うので、もっとたくさんの人に知ってもらいたいと思います。有名な耳なし芳一の話がある赤間神宮には、琵琶と、歴史を感じる銅像が飾ってあるので、ぜひ行ってほしいです。これからも、下関の魅力を伝えていきたいです」



森 航琉 さん



ジモトガイド



ジモトガイドは、来年度下関の小学校に入学する新1年生に冊子で配布されます。全国のファミリー層へ、アプリでも配信されます(12月中旬予定)。

▶詳細は下関市
シティプロモーションのサイト
から



亀甲夏穂 さん

下関の魅力を伝えたい

ジモトガイドの作成を、6年生の担任江村葉先生はこう振り返ります。「下関のことをやはり知らなかったと児童たちは実感したようです。そして、もっと調べたいという気持ちが芽生えたように思います。ジモトガイドの作成の打ち合わせで、東京の製作会社の方と児童が話しました。「下関では当たり前と思っていたことが、県外の方から見ると当たり前ではなかった」と気付いたようです。だから市外の方に伝えたいという意欲が増したように思います」

早速、「修学旅行先で下関をPRしたい」と、6年生が発案したそうです。そこで、下関の魅力を詰めたパンフレットを作って、出会った人たちに渡す企画を考えています。他にも、青島の^{デング}大学生に向けて、下関の魅力をZOOMで伝える企画もあります。ジモトガイドの作成をきっかけに、角倉小学校6年生が自分ごととして、下関の魅力を発信しています。

「下関ってなんだかいねー」と言われるプロモーションが、少しずつ広がっています。